

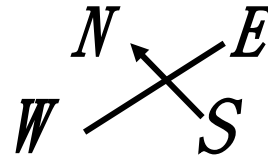
藤 沢

2021年12月1日

第331号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・「東電刑事裁判不当判決」をみて
- ・COP26と若者たちの気候正義
- ・せっけん推進協議会 40 周年
- ・ネオニコ農薬散布中止を・「手と手をつないで」

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

ゼロカーボン推進週間の成功を！！

11月に行われたCOP26（英国グラスゴー）で世界の平均気温を1.5℃に抑えることが世界共通の目標として合意され、国内での取組を加速することが求められています。

藤沢市では、2月に「気候非常事態宣言」で気候危機を回避するため「脱炭素社会の実現」（2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにすること）を表明し、この大きな目標に向けて、社会のしくみや私たちの生活が大きく変わっていかうとしています。

これまで環境フェアなど様々な取組を行い、今年もコロナの影響で中止を余儀なくされましたが、12月には「ゼロカーボン推進週間」（12/13～17）を新しく設定し、「脱炭素社会の実現」について多くの市民と一緒に考えていくために、WEBセミナーの開催や市役所分庁舎でのパネル展示などを行うことになりました。

また、「環境基本計画」と「地球温暖化対策実行計画」の改定が進められており、11月にはその素案（温室効果ガスの削減46.3%目標）についてパブコメが実施されました。多くの市民から藤沢市の削減目標についてさらなるupを求めるコメントが寄せられていると思われます。

一方、2022年までに温室効果ガスの40%削減を目標に掲げてきた前実行計画では、現状把握の算定方法に問題があり、有効な対策ができず達成できませんでした。今回はこの反省の上に、より正確な算定方法による現状把握と実効性のある取組（具体的にいつまでにどのような取組をするか戦略的方針）の確立が不可欠です。

カギは省エネと再エネで、特に再エネのポテンシャルを最大限に活かすべきで（環境省地球温暖化対策計画における地方公共団体（区域施策編））、藤沢市は市役所を初め、公共施設での再エネの取組を最優先で率先実行し、リーダーシップの発揮が求められています。

2050年に向けたゼロカーボンをめざす「脱炭素都市藤沢」のシナリオを明確にし、市民、事業者、行政などあらゆる主体が広く情報を共有し、協働して大きなムーブメントを起こして行こうではありませんか！！

（ふじさわ環境フェア企画実行委員・地球温暖化対策地域協議会会員 NGO 気候危機アクション藤沢事務局 宮地俊作）



黄色に輝くイチョウ並木
リサイクルプラザ藤沢前

COP26と若者たちの気候正義

COP26に向けて日本から5人の若者達が日本を発った！ 環境活動家としての同志、モデルで気候アクティビストの小野リリアンが高校生と大学生らを連れての参加だった。

“気候危機を止めたい！”コロナ禍でのリスクを覚悟しての決断だ。

しかし、問題はそれだけではない「Fridays for Future のグループなのに、気候活動家なのに飛行機に乗るなんて」という葛藤…。

欧米諸国では、CO2の排出が激しい飛行機での安易な航空移動を「Flight Shame」（飛び恥）と言われている。

飛行機に乗らず陸路で行く計画をしていたけれども、コロナで陸路が非現実的だとわかってから、飛行機に乗ってまでしてCOP26に行くべきか、何度も何度も話し合った。

彼らのこの葛藤の重さ。

日本の岸田首相も訪問し、ほんの数時間の滞在をした…。しかし、その重さの違いは比べようもない。

さて、今回のCOPにおいてまた先進国側は既存の権益と世界での優位の維持を優先したいというのが見え見えの内容だったといえる。

決定文書に盛り込まれた言葉とは裏腹に、パリ協定の1.5℃目標の実現を危うくするものと言っても過言ではない。

そして言いようもない焦燥感が支配したCOP26が終わった…。



写真提供 小野リリアン

残酷なほど無関心だった日本、現地で手紙を渡そうとした高校生を無視するという人倫に悖る行為を行った日本の首相。

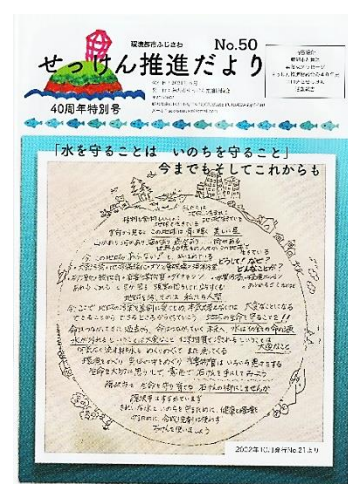
それでも前向きに考えようとする彼らの姿に、

僕は不覚にも涙を流してしまった…。

そしてこう伝えたい「僕は君たちのことを心から尊敬する。」と。
(武本匡弘)

藤沢市せっけん推進協議会が40周年を迎えました

多くの方々の支え合いと優しい励ましがあったからこそその40周年、感謝の気持ちも込めて、せっけん推進だよりNO50を「40周年特別号」として発行しました。お手に取り活動年表など見ていただけたら幸いです。1981年、直接請求は否決されたけれど市長の意見書と市議会の決議文をもって藤沢市洗剤対策協議会が発足しました。



“市と市民が一体となって”の意気込みで石けんを使いましょうリーフレット、NO1(洗濯編)NO2(台所編)NO3(シャンプー・歯磨き)NO4(住居)を次々と毎年11万枚の全戸配布は画期的だったと思います。

何も知らない主婦が「金魚の実験」を

見て合成洗剤の危険性を知り、驚き嘆き反省しながら考えた末、知った以上は何かしなくてはと学び始めた時だったので、発足2年目に会長に指名されたことは与えられた仕事と受け止め無我夢中でやってきました。学者でも研究者でもないけれど生活者の声にも真実があると私や仲間が力んでいたと思います。活動は常に実践的、現実的であるよう心掛け、実にたくさんの事に取り組みしました。

しかし、石けん推進の活動は暮らし方に介入された感を与えてしまうこと無きにしもあらずで大変。色々の体験から未来に向かう子ども達と共に！の感覚が大事と悟りました。

「きれいな水を守ることはいのちを守ること」この理念をしっかりと持つことです。

せっけん使用を勧めるけれどせっけん屋さんではない。命を守るという大事なことをせっけんに拘わって進めているんだとメンバーたちと語り合います。

環境のためにどちらを使う？健康のためにど

こちらを選ぶ？安全で安心の暮らしのためには？安らかな平和のためにはどちらを選びどうしたら良い？正しい選択が日頃の生活の中でごく自然にごく当たり前にできるようになるのが希望です。

合成洗剤を止めてせっけんを使うことは自分の意志1つでできることで、また知った驚きが、知った喜びに代わると視野が広がると信じています。

コロナ禍は暮らし方を見直す時でもありました。40周年は区切りであり新たなスタート点になり、呼びかけ働きかけは続けることになりそうです。

手塚弘子

DVD「東電刑事裁判不当判決」を見て

映画の内容は 2019 年に公開されたものである。福島第一原発事故の東京電力旧経営陣の責任を問う刑事裁判は、検察によって「不起訴」とされた後、一般市民による検察審議会の2度の「起訴相当議決」により「強制起訴」となった。

「検察による不起訴」には、市民感覚とのずれを感じる。2021年9月19日の判決もまた、市民感覚からは信じがたい「全員無罪」。

映画では、事故後に双葉病院（福島県大熊町）で起こっていた入院患者移送の過酷な状況とそれによって患者さんたちが死亡したことが語られた。移送先の床に並べられた患者さんたちの姿は、正視に耐えない。原発事故による突然の避難指示がなければ44名の方々はこれほど悲惨な死を迎える事はなかったはずである。

津波対策を怠って原発事故を引き起こした東電の旧経営陣は「業務過失致死傷罪」に問われた。なぜ「全員無罪」なのか。

判決は、国の地震調査研究推進本部が福島沖でも巨大津波が発生する可能性がある」と指摘した2002年の『長期評価』には信頼性がない、と決めつけた。

2006年9月「原子力安全・保安院」からの新耐震指針に基づく地震・津波予測と対策の見直し要請があり、それに対して津波の最大の高さは東電の子会社によって15.7メートルと試算され、2008年の3月には防波堤の設置を検討していたのだ。

それにもかかわらず、元副社長の武藤栄氏は、7月に土木学会に改めて検討を依頼し対策を先延ばししていた。裁判では、その前後の経過と経営陣の無責任ぶりが、つまびらかにされた。

東電が想定される津波の高さを保安院に報告したのは2011年3月7日。大震災の4日前。事故原因は津波対策の先送りにある。

旧経営陣は裁判で記憶にないなどととぼけ通した。東電原発事故の真実と責任の所在を明らかにするこの裁判は原発社会に終止符を打つため、非常に重要な意義を持つ。この映画はYouTubeでも無料公開されている。高裁での審理は11月2日に始まったばかり。

（すどうゆりこ）

「手と手をつないで」を発行

「福島子どもたちとともに・湘南の会」では福島原発事故10年となった今年と昨年、リフレッシュ活動ができませんでした。

今までリフレッシュに来られた親子とつないだ手を放さずに活動を続けて、この度「手と手をつないで」という一冊の文集を発行することができました。

福島の親子は忙しい中でもたくさんの感想を寄せて下さいました。あの時小学生だった子どもも今は大学生に成長し部活動等に励んでいます。そしてボランティア、顧問、関わってくださった方々に記事をお願いし作成しました。

「福島子どもたちとともに・湘南の会」の経過や協力団体等を記載、あたたかいひと言を寄せて下さった皆さまに感謝申し上げます。

たくさんの募金をして下さった、ものすごく多くの方々全員にはさしあげることができずに心苦しいのです。関わった団体や会を掲載させていただきました。

コロナが収束したらまたリフレッシュ活動を続けていきたいと思います。（荒井）



湘南海岸砂防林への農薬散布の中止を

～藤沢市内の特別支援教育を受けている児童生徒数の推移～によりますと 1997 年は 284 名でしたが、2019 年には 967 名になっています。この数字には驚きます。なぜこれほど急激に増えたのか。

ネオニコチノイド農薬は、人の健康を害し、特に子ども達の脳の発達に影響する可能性がある～と論文発表した環境脳神経科学情報センターの黒田純子氏は世界で始めてごく少量のネオニコチノイドが小脳の神経細胞を攪乱、毒性を発揮することをつきとめ警告しました。

長野県松本市では、山根二郎弁護士を中心に、松林ネオニコ散布を中止せよと訴訟をおこし、2020 年に中止に追い込んだそうです。北海道大学池中良徳准教授は、松本市の市民運動より要請を受け協力、2016 年幼児 46 名から尿を採取し、その結果 100%ネオニコが尿から検出されたとのこと。長野県ではネオニコ農薬を松枯れ病対策に使用していた事によって、健康被害を訴える人が後を絶たないと聞いて池中氏は調査に協力したと語っています。

皆で力を合わせ散布を中止させ子ども達を守りましょう。(湘南海岸砂防林への農薬中止を求める会 伊藤直子 <naokoito@jcom.zaq.ne.jp>)

藤沢エコネットニュース 合本を図書館へ寄贈

1994 年 5 月初刊の藤沢エコネットニュース、毎月発行し、営々 27 年になります。この度、準備号から 2019 年 5 月の 300 号までを 3 冊に製本し、市内図書館に寄贈しました。

20 数年前の藤沢市のごみ問題、ダイオキシン問題など環境問題を振り返る材料にしていただけたら、幸甚です。



ECONET INFORMATION

▲ふじさわ環境パネル展

環境保全や地球温暖化防止に関する、市内の環境団体や事業者、大学、行政が日頃行っている活動や取組などを紹介します

12 月 13 日(月)～12 月 17 日(金)正午まで

藤沢市役所 分庁舎 1 階ロビー

▲ふじさわ・不戦のちかい平和行動

市民と議員で訴えます

12 月 8 日(水)12:00-13:00

藤沢駅サンパール広場

主催 実行委員会 090-9019-1350 植木



▲「人新世(ひとしんせい)の資本論」

斎藤幸平著書を読み解く懇話会

司会進行 武本匡弘さん(環境活動家)

12/17(金)10:30- 12/19(日)17:00-

12/26(日)17:00- 各 105 分

場所 エコストアーパパラギ 2 階

申込制 ☎0466-50-0117

▲「学校を電力砦に」

講師 安竹哲雄さん(元京セラ(株)OB)

12 月 19 日(日) 15:00-17:00

場所：六会公民館体育棟会議室 資料代 300 円

主催：NGO 気候危機アクション藤沢

▲藤沢エコネットから

◆お詫び 11 月号 3 ページの「ふじさわモデル 学校を電力砦に」というプランについて、誤解を招く記述がありました。学習会をしてご理解を深めます。詳しくはチラシをご覧ください。ご参加ください。

◆会員募集 年会費・購読料→2000 円

◆事務局会議 12 月 4 日(土) 10:00～

六会公民館

《編集後記》今年も残り少なくなった。振り返ると目まぐるしい 1 年。何ととってもコロナ禍での東京オリンピックで爆発的な感染をさせ、国民を恐怖と不安に突き落とした。また新たなオミクロン株が流行し始めているので警戒を強めて封じ込めたい。11 月、新しい岸田内閣も誕生した。10 月の総選挙では野党共闘で、地球温暖化問題に良い方向を示した政策は良かった。これほど気候危機問題を議論した年は今まで無かった。(H)